

第30回関東・甲信越支部学術大会

患者の快適性を追求したインプラント治療

日時：平成23年2月12日（土）・13日（日）

場所：パシフィコ横浜

木村 美穂（埼玉県）



平成23年2月12日（土）・13日（日）日本口腔インプラント学会の関東・甲信越支部学術大会がパシフィコ横浜で行われました。

2日間にわたって、たくさんの長期経過症例を拝見し、フルブリッジの設計や上顎の全顎補綴に対する考え方など、大変参考になりました。また、「インプラント治療をするということは、自分が死ぬか、患者さんが死ぬまでお付き合いするということだ。」という言葉が大変印象に残りました。

クロージングシンポジウムでは、マークシートにて参加者からアンケートを回収し、シンポジストの先生方にもご意見をいただく、新たな試みが行われました。

インプラントを行うドクターへのアンケートであったにもかかわらず、歯牙の保存を選択された方が多かったのが印象的でした。

相浦洲吉先生、Dr. Eric ROMPEN、Dr. Giovanni E. SALVI、Dr. Paul WEIGL、の4人の先生方からも、たくさんのご意見を頂戴し、たいへん白熱したディスカッションになりました。

患者さんの快適性を追求したインプラント治療の、その大きな効果と、責任の大きさを改めて実感した2日間でした。学会発表された先生方のように、患者さんとの喜びを分かち合える形を目指して、インプラント臨床を行っていきたいと思います。

（川口リボンシティ歯科・矯正歯科）

